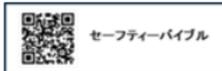


安全作業手順書【試掘工】



見振りもり基準をした危険性の評価			
重大性	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
(B)	○ ○ ○ ○ (5年に1回程度)	○ △ (かなり小さい)	○ × (中程度)
	△ たまに起こる (1年に1回程度)	△ △ (中程度)	△ × (かなり大きい)
	× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	× ○ (中程度)	× × (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見振りもり	危険性の評価	危険度	判定
× ×	極めて重大	5	即座に対策が必要
× △、△ ×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
× ○、△ △、○ ×	中程度	3	何らかの対策が必要
△ ○、○ △	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○ ○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛鳥北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具 ・車両	角スコップ、ハサミ、土のう袋、探査機	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、 手袋、軍手、安全靴

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント (~なので~になる)			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ) (私達はどうする)			リスクの再見積り		
			(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク			
準備工	協議内容確認	試掘日時、場所の確認を行う	ケーブル協議の内容と照合して	書類を確認せず、 協議申請日以前に作業を開始してしまう	△	×	4	必ず書類上の申請日を確認して、作業に臨む	○	○	1			
	現場確認	ケーブルの埋設箇所、向きを確認する	①ハンドホール等、ケーブル施設を目印に ②探査機を使用して	深さ、向きを確認せず、勢いあまり ケーブルを損傷させたり、試掘が非効率になる	△	△	3	ハンドホールがある場合は必ず蓋を開けて 深さ、方向、条数を確認してから作業に臨む	△	○	2			
	草刈	草が広域に繁茂している場合は、事前草刈を実施する	草刈作業手順書に則り	/	/	/	/	/	/	/	/			
本作業	マーキング	スプレーで所定の間隔を測り試掘箇所をマーキングする	風向きに気をつけて	風によりスプレー染料が車線側の一般車や 歩行人に飛散する	△	△	3	風向きに十分注意して、車線との近接箇所では ビニールシート等で飛散対策を行う	○	○	1			
	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場 から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2			
	草刈	試掘箇所付近の少量の草を鎌で刈り取る	切創用手袋を着用して	勢いあまり、鎌で身体を損傷させる	△	△	3	刈り手は必ず切創用手袋を着用する	△	○	2			
		斜めに掘削する	スコップの向きに注意して	勢いあまり、スコップの先でケーブルを損傷させる	○	×	3	必ず角スコップを使用し、少しずつ掘り進む	○	○	1			
		掘り出した土を順次、土嚢袋に入れる ケーブルを露出させる	詰め込みすぎないように ケーブルに埋設標のバンドが巻けるぐらいに	袋に土を詰め過ぎ、持ち運び時に身体を痛める 土嚢袋の紐部分に足をとられ転倒する	△	△	3	土嚢袋には8割程を目処に土を詰める	△	○	2			
ケーブル確認	ケーブル条数、種類を確認する	ケーブル図と照合して	/	/	/	/	/	/	/	/				
	検測を行う	幅、高さを確実に明記して	/	/	/	/	/	/	/	/				
	試掘箇所を土嚢袋にて養生する	主作業が開始されるまでに	試掘箇所に気づかず、転倒する	△	△	3	作業終了後は必ず養生し、場内を確認する	○	○	1				
後処理	清掃	帯で場内清掃を行う	車線側への砂埃に注意して	強い風により砂やほこりが走行車両に飛散する	△	△	3	監視員を配置し、車両の無いタイミングで清掃する	○	○	1			
	場内確認	場内状況及び清掃状況を確認する	使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	/	/	/	/	/	/	/				
後日処理	埋め戻し	主作業が終了した後、埋め戻しを行う	体勢に注意して	/	/	/	/	/	/	/				